

魚津市立片貝小学校



地域とともに

明治6年、片貝小学校の前身「島尻学校」創設以来、142年間に渡って地域文化の拠点としての役割を果たし、その時代の要請に応えつつ、数多くの人材を輩出してきた本校も閉校の時を迎えています。

校章に描かれた早蕨には、生き生きとした早蕨のようにすくすくと育って欲しいという地域の願いや期待、希望が込められています。本校はこうした願いに応えるべく、毛勝三山に見守られながら、清流片貝川のせせらぎと豊かな緑につつまれた自然を生かし、地域の温かい眼差しと団結力のある保護者に支えられながら、教育活動を展開してきました。

小学校と保育園の複合施設として建てられた木造風の立派な校舎と充実した施設・設備、「洞杉巨木群」「沌滝」「蛇石」に代表される豊かな自然や地域人材を活用したふるさと教育、地域から物心両面に渡る多大な支援をいただいている3年に一度の「東京社会体験学習」。これらの施設・整備や活動にはふるさとを愛し、広い世界を見聞きして、自分の夢や希望をもって歩んでほしいという地域の熱い願いが現れています。

校長室の棚には、文集『かたかい』が昭和48年発行の第1号から第53号まで並んでいます。「顔のうつらない心のアルバム」として、毎年、全児童の思いを綴ってきたものです。そこには、子供たちの喜びや感動、満足感、希望、そして家族や友達、地域への感謝の心が表わされています。この心こそが本校が実践してきた教育活動の成果であり、伝統と文化を物語る大切な宝物なのだと思います。

本校の歴史はこれで閉じられ、4月からは清流小学校として新たな歩みを始めます。片貝小学校の歴史と伝統、そして「ふるさと片貝」が、新たな一歩を踏み出し、成長していく子供たちの支えになっていくことを願っています。

長い歴史に幕・統合 新たに「清流小学校」に

魚津市立西布施小学校



ふるさと西布施は心の支え

本校は、明治6年11月、布施爪村に静亮小学校として創立、現在の地に小学校が建てられたのは今から約70年前、学校の名前が魚津市立西布施小学校となったのが今から約60年前。142年の長い歴史があります。学校の教育目標は「歴史と文化をもつ郷土を愛し、心身ともにたくましく、個性豊かな子どもの育成」とし、ふるさと学習を中心とした教育活動を展開しています。これまでの活動とその成果が認められ、平成25年11月、富山県より「ふるさと教育 とやま賞」をいただきました。

西布施地区は、魚津市の南部、雪絵で有名な僧が岳のふもとに位置し、746年開創と伝えられる寺院や縄文時代早期の遺跡が残る豊かな歴史や文化を有しています。

特色ある活動として、全校児童と地域の方で近くの野山に出かけ、山菜を摘み、その山菜を調理して味わう「山菜摘み、料理集会」を行っています。この活動は、昭和53年度より続いており、子供たちは、この体験活動を通して、春の訪れを実感し、西布施の豊かな自然を味わっています。また、江戸時代中期から伝わる「布施谷節」が今も引き継がれています。毎年、高学年女子児童が学習発表会や地域の行事等で、静かで心に染み渡る調べにあわせ、早乙女の姿となり踊りを披露しています。運動会では昭和41年度より「新布施谷節」として、全校児童、保護者、地域の方々が一つの輪となって踊ることで、地域の一体感を高めています。

地域にとけ込み、ふるさとへの愛着を高めてきた本校は、今年度末で閉校し、校舎も取り壊されます。子供たちが、これまで取り組んだ活動から、自分なりに育んでいる「ふるさと西布施」への思いを忘れず、生涯にわたって自分を支える「心の西布施小学校」をずっとずっと、もち続けてほしいと願っています。

魚津市立吉島小学校



ふるさととともに

本校は、昭和45年に加積小学校と天神小学校が統合し、吉島小学校として創立されました。校区は豊かな自然に恵まれた地域にあり、校舎の窓から望む毛勝三山の山並みや片貝川の清らかな流れは、今も変わらず四季折々の自然の美しさを感じさせてくれます。学校周辺には県内有数のりんごの生産地があり、子供たちは太陽の恵みを受けて日ごとに大きくなるりんごの生長を楽しみにしながら元気に登校しています。春に可憐に咲くりんごの花は本校の校章のモチーフとなっています。

本校では、社会科や総合的な学習の時間に地域の特産物であるりんごについて学習しています。長年、りんご生産に携わっておられる地域の人々との交流を通して、自ら課題を見付け、図書資料を活用したり農作業を体験したりしながら進んで課題を解決する力を育んでいます。そして、りんご生産に情熱を傾け、愛情を注いでおられる地域の人々の想いから、ふるさとへの誇りと愛着を深めています。

本校児童のふるさとの自然の美しさに感動する心や課題を見出し解決しようとする向上心は、このような豊かな自然と地域の人々の温かいまなざし等の地域の教育環境に支えられています。公民館活動やスポーツ少年団、ブラスバンド部の活動等にも積極的に取り組み、地域の中で多くの人々と交流することを通して礼儀や思いやりの気持ちを高めています。

平成28年4月から片貝小学校、西布施小学校と統合し、新たに清流小学校としてスタートします。それぞれの地域の自然や文化のよさを大切にしながら、多くの仲間とともに新しい歴史と伝統を作り上げてほしいと願っています。

わが校の歴史からⅢ

来年度から「休校」に

立山町立新瀬戸小学校



伝統を受け継ぐ

新瀬戸小学校は、明治6年に校区の上宮の満法寺に宮村小学校として創立されました。142年の歴史をもつ本校の特色は、古くからある伝統文化を、地域の方とともに本校の子供たちが受け継いできたことです。

その一つに、池田浄瑠璃があります。池田浄瑠璃は、池田城主のために約400年前に始まった村芝居です。一時途絶えていましたが、昭和62年にその台本が発見され、高学年の子供たちが上演するようになりました。浄瑠璃には特有の言い回しがあり、細やかな心の動きを言葉と演技で表現しなくてはならないため、完成するまでに長い時間がかかります。子供たちは地域の方々の熱心な指導を受け、伝統を受け継ぐ者としての責任と喜びを味わい、郷土への愛着を深めてきました。

また、昭和40年からスタートした版画カレンダー制作も本校を代表する伝統です。現在、学校には昭和43年以降の版画カレンダーが保存されています。始めは卒業記念作品として制作され、学校生活等の様子を表現していましたが、現在では池田浄瑠璃の一場面を版画にし、カレンダーにしています。子供たちにとっては、浄瑠璃の思い出がつまった小学校時代最高の作品であり、宝物となっています。

伝統を受け継ぎ、地域に支えられてきた新瀬戸小学校も、平成27年度をもって休校します。地域の方と触れ合い、伝統を受け継ぐことによって成長してきた子供たち。4月から新たなスタートをきることとなりますが、新瀬戸小学校で得た感動と喜びを誇りに、自分らしくたくましく歩んでくれることを願っています。